

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム・ローズガーデン
(ユニット名)	紅バラ
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市下荒田2丁目34-15
記入者名 (管理者)	桑畑 由紀子
記入日	平成 19 年 7 月 25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開所当時のスタッフで決めた。それを目標とし実現出来る様に努めている。日々機会をとらえスタッフにも理念の意味を伝える様に努めているが十分ではない。		毎朝の申し送り時全員で理念を唱和している。日々の業務やケアに迷ったとき理念に立ち返り考えていける様努めていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有しているとは言えない。個々によって理解能力に差があり取り組む姿勢にも違いがある。		理念の意味を全スタッフが理解できる様、機会をとらえ具体的に話していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の人々に理念を理解してもらえ様に積極的に取り組んではいない。しかし毎月の広報誌で理念やホームの様子など知って頂ける様にしている。		地域の行事等に参加させて頂き地域の方々も入居者の様子を理解してくれている。今後も継続して交流を深めていく事により理念の意味あいも少しずつ伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の途中で日常的なあいさつをする程度である。立ち寄る方も町内会長さんや民生委員の方など特定の方である。		地域の行事等にも積極的に参加し親睦を深め気軽に立ち寄って頂ける様、関係を築いていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(十五夜・運動会・文化祭)や近くの中学校(運動会・演奏会)の行事等に呼んで頂き参加させて頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	総括の管理者が地域の成人学級や婦人学級の勉強会で講師として認知症の予防や理解を求め活動をしている。		他のスタッフも少しずつ介護に対する知識・技術を身につけ地域にも貢献できたらいいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義もスタッフ個々で理解力に差がある。具体的に改善策を考えても取り組む姿勢も個々で差がある。		自己反省の良い機会として考え評価の意味を理解しひとつずつ改善出来る様努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催の機会も少なく施設側からの - 方的な報告会の様になっている。		議題を明確化し参加者にも解りやすくつたえる。意見が出しやすい方法を考えていく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは書類上の手続き等で連携を取っている程度である。		担当者が入居者の状態等把握しているとは思えずサービスの質の向上に共に取り組む方法が見出せないでいる。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業や制度がある事は解っているがあえてそれを利用はしていない。スタッフにもその事業や制度を使う必要があるのか指導していくのに疑問がある。		入居者にとっても身元引受人が明確である方が不安や心配がないと思われる。施設側にしても同様である。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については身体的なもののみにとらえがちであるが言葉使い態度等も精神的に虐待になる事など機会をとらえ具体的に伝えている。		介護は人対人である。スタッフも人であるという事を忘れず過剰なストレスを感じる事のない様スタッフ間で話しやすい環境をつくっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書にそって説明を行い同意を得ている。退去時には理由によって施設管理者及び主治医からの説明を行っている。</p>		<p>家族によっては最後まで施設での生活を望まれる方もおられる。その為には医療との連携及びスタッフの能力、技術の向上に努力していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満や苦情のあった時は対応策を検討し改善して行く様努めている。外部者へ相談し助言を頂く機会を設けていない。</p>		<p>入居者が不満や苦情を出来るだけ感じない様スタッフが気付き先手のケアや声掛けが出来る様相手の立場になって気持ちを理解していきけるよう努めていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の生活及び健康状態、金銭管理については定期的に報告させて頂いている。スタッフの異動については家族の面会時などに伝えるが遠方の家族には報告していない。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>頻繁に面会に来られる家族からは日常的な不満や苦情をお聞きし対応した結果を報告する様にしている。面会の少ない家族、遠方に居る方などの意見や不満は聞かれない。</p>		<p>意見や不満のないご家族こそ本音で話して頂ける様に気をつけていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見や提案は会議の時や申し送り時などに聞いて反映させる様にしている。内容によって運営者にも相談している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者や家族の要望には出来るだけ対応している。また、行事等はスタッフの自主的な参加に頼っている所がある。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職はない様に努めてはいるが現実には離職も多い。</p>		<p>退職者は1ヶ月前に申し出てもらう様にしている。しかし突発的な病気・腰痛・家庭の事情などで退職する人もいる。他のスタッフに協力を得利用者負担をかけない様努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は外部・内部(月1回)で参加しているが十分であるとは言えない。		研修に参加できる様な勤務体制作りをして行きたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属している。総会や研修で交流があり相談をしたり情報も聞いてサービスに生かす様にしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々によってストレスを感じるのには程度の差があるので、難しい所もある。スタッフとも向き合っ出来る限り話しをする様努めている。		年齢差や意識、考え方の違い等あるのは当然の事なのでその差が縮まる様お互いの意見・考え方を言える関係作りをして行きたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の力量は把握しており努力した所はほめて足りない所はアドバイスする様にしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話は良く聞き、利用に関しても家族の気持ちの方が先行している。本人とは不十分である。		本人自身の気持ちを理解しても、家族にうまく伝えられない所がある。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の相談は良く聞いて受け止める努力はしている。		家族にとっては十分に満足とはいえないと思うが少しでも心身の負担が軽減する様努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しを十分に聞き、支援方法を考えている。必要に応じて病院のリハビリ利用もしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して入所される方もおられるがそうでない方もおられる。徐々に馴染める様にしていくのは当然であるが、実際には早く入所と言われる家族がほとんどである。		入所当初は細心の注意を払い心身共にケアし安心してホームの生活に馴染んで頂ける様つとめている。スタッフ間でも情報交換を細めにする様にしている。今後も継続していく様努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の観察が不十分で本人の思いにも気付いておらず喜怒哀楽を感じるに至ってない。		業務優先になっており一緒に過ごす意義を理解していない。全スタッフが私たちが向き合っているのは人だと言う事を常に意識し自分の立場に置き換え接して行ける様、機会をとらえ伝えていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所されている家族(身元引受人)も高齢の方が多く支えていくのをお願いするのも躊躇する所がある。家族の意図を理解し本人を支えていくのに協力はしている。		施設側の一方的な押し付けにならない様、家族の方が自発的にされる事は協力していく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	理解しようと努めてはいるが家族の意思にまかせている所が大きい。		家族によって本人に対する想いも様々であると思われる。細めに本人の状態を伝え理解して頂ける様努めていく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族(身元引受人)に相談しながら支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	十分とは言えないがスタッフが間入り孤立せずにお互いに係わり合いが上手く行く様支えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要とされる利用者や家族には相談を受けたりしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望に気付いておらず、本人本位とはいえない。		スタッフの思い込みでやっている所もあるのでその人と向き合い知る努力をして行きたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族に伺ったり生活していく中で本人に聞いたりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の現状把握が十分に出来ておらず、有する力を引き出す事が出来ていない。		業務優先であり出来ることまでスタッフがしていることもある。個々の状況を全スタッフが共有できる様スタッフ間の情報交換を身に付けていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見を伺うが任せますとの返事が多く意見が反映された介護計画とはなっていない。施設側の一方的な計画になっている。積極的に意見をくださる家族は限られている。		本人や家族にも介護計画という物がどういう目的でどう生かされるのか伝えていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じてカンファレンスを行い見直しを行う様に努めているが新たな計画作成は完全には出来ていない。ケアプランチェック表の内容の変更はする様にしている。本人、家族との話し合いも不十分である。		本人や家族とも話し合い現在の状況に即したサービス提供が出来る様介護計画作成を行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子だけの記録にとどまっており気づきや工夫がない様に思う。計画の見直しに活かされていない。		小さな変化にも気づきその後の対応迄考えられる様 機会をとらえスタッフに伝え、考える力を身につけられる様にしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各ユニットに意見箱を設けたり意見を伺ったり出来るだけ要望に添うようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人が必要性を考えていると思われる。警察や消防は身の安全を守って頂いたり、ボランティアの訪問や学校行事に招待され感動したり喜ばれたりされている。		今後も協力を頂き安全性の確保や感動や喜びの機会を多く持てる様にしていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用は無い。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所に関しての相談のみにとどまっており協働とはいえないと思う。		支援センターとの協働の内容をよく理解していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診や緊急時も主治医に連絡し医療を受けられる様にしている。家族にも本人の状態を知らせたり主治医より説明して頂く様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と相談し診断や治療を受けられる様支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	連携病院の看護師・リハビリ担当・栄養士に相談し助言をもらったり活用している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	普段から主治医に利用者の状況を報告している。入院になった時も主治医及び看護師と連携し早期に退院できる様努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医やご家族と相談し方針を共有する様になっている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者は主治医・家族と相談し入院になっている。ホーム内でケアしていくのにスタッフがどの程度理解し支援していけるか不安がある。		終末期の利用者はより専門的な医療知識・技術が必要になってくると思われる。主治医の指示のもとスタッフができる事を見極め支援していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移る時は病院に入院の時のみである主治医・家族と相談しダメージを防ぐ様努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	私がこの人の立場であったらどうかという基本的な考え方が出来ていない。		長く一緒にいたりすると慣れ合いの所も出てくると思う。言葉かけや対応も慣れに気をつけスタッフ間でお互いに注意できる環境を作っていきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思い、希望を解る努力が個々のスタッフにより差がある。スタッフの一方的な思い込みが優先している所がある。		個々に出来る限り接しその人を知り解る事だと思ふ利用者に向き合う事に努めていく事だと思ふ。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になっており個々のペースに合わせたり希望にそっての支援にはなっていない。		個々の状態に応じてその人にあった過ごし方が提供できる様その人を知り解る努力をしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみは十分に気をつけているとはいえない。理髪はご家族の協力を得て近くの美容室に行かれたり施設にきてもらい散髪をされている。希望される店ではないが散髪時は嬉しそうにされている。		毎朝の整容がきちんと出来る様、努力していきたい。継続する事によりスタッフの意識が変わってくると思える。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時に感想を伺ったり味見をして頂いたり美味しく召し上がって頂く様にしている。スタッフと一緒に個々で出来る事皮をむいたり、米をといたり、食器を洗ったり、運んだりされる。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコはない。飲み物は個人の好みによって出している。(ヤクルト・りんごジュース・ココア・コーヒー)おやつは菓子類が多い。時々手作りでゼリーやホットケーキなど出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をつけ個々の排泄のパターンを全スタッフで共有している。時々タイミングが合わず失敗もあるが努力はしていると思う。		その日の個人の体調や心身の状況でも排泄パターンに変化があるので個人の状況の把握が適格に出来る様にしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯もスタッフの業務の都合で決めている。個々のタイミング(入りたい時)に合わせて入浴される方もいるが全員ではない。		利用者の希望を実現していくには業務の見直しや勤務時間・勤務体制等の検討が必要と思う。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中も自力で動けない方はイスに座らせっぱなしの状態も見受けられる時がある。空調管理などスタッフの感覚でしている所がある。		個々の状況をしっかりと把握し休んでいただく様したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に出きる役割、楽しみごと、気晴らしは全員には支援できていない。		個々の楽しみ、気晴らしの支援内容を十分に把握し考え実施していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安な方は所持して頂く様にしている。個々の希望に応じ買物に行きお金を使える様にしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	前もっての計画にそっての外出や近くの公園、屋上への散歩は行っているが個々の希望にそってとは言えない。		個々の希望にそって対応するスタッフ間の意志の疎通、連携がとれるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事は全員が前提で実施している。個別には誕生日に外食する程度である。家族によっては温泉やドライブ等出かけられる方もおられる。		個々の希望にそって外出する機会も増やす様工夫し支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をする方は限られているがしている。。手紙のやり取りは支援していない。		手紙など強制は出来ないが本人の希望にそって支援していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族(身元引受人)に前もって面会の困難な方とか伺い対応させて頂いてる。面会時には雰囲気が良い様にスタッフも対応に気をつけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の意味あいとは解っており拘束はしていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間、個人の居室に鍵をかけないと安心されない方もおり個々によって対応している。日中も1Fには誰もおらず防犯の意味で鍵はかけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時々転倒があったりし所在や様子を把握し安全に配慮しているとはいえない。		スタッフ1人1人が個々の状況把握を十分に行い、責任を持って仕事に取り組む意識付けに努めていきたい。失敗を繰り返さない様努力する。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて裁縫箱の針やはさみの使用中など危険の無いようスタッフも一緒にしたり見守ったりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止について勉強会は行っているが事故がどういう状況につながるのか十分に理解しておらず認識が甘いと思う。		事故があったら高齢者はどういう状況になるのか、日頃よりスタッフに具体的に伝え理解してもらおう様にする。
急変や事故発生時の備え				

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応など勉強会で実施しているが実際の場面で動けるか不安である。		どの場面でも素早く対応出来る様繰り返し勉強していく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一回避難訓練は実施しているがそれだけで十分とはいえない。		日々シュミレーションし出来る様にする場面を作りたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に高齢者におこりうるリスクは説明させて頂いている。しかし本人の意欲によっては歩行したり適度な運動や家事もして頂いている。入所後も個々の状態変化について報告、説明を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの変化でも早めに病院受診し対応していく様努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用までは全スタッフが理解しているとは言えない。主治医の指示のもと服薬の支援はしている症状の変化についてもスタッフ間で話し合い連絡表を書いて主治医に報告し対応している。		薬の目的や副作用など全スタッフが理解していく様努め疑問のある時は主治医に伺い学んでいく様にする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来る限り薬に頼らない様食物や運動をする様努めているが困難な時は下剤も使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨き、うがいの口腔ケアを行っている。タイミングが合わない時は時間をおいて歯磨きをして頂いたり夜間はポリデント等で義歯を消毒している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスを考え立てている。食事量や水分量のチェック表を作成し個人の状況が解る様にしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルは作成している。日常的には、まな板や手拭きタオル、トイレ・浴室の消毒をハイターで行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の買物は毎日行い、新鮮な物を使うようにしている。調理用具についても消毒を行っている。冷凍している残った食材も早目に使う様にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は普段の家庭と同じ様な造りであり玄関の横にも花のプランターを置いたりしている。近所の方も高齢者が迷子になった時連れてこられたりし安心して出入りは出来ると思う。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾ったり、廊下にも入居者とスタッフで作った作品を飾るようにしている。居間では観葉植物を置いたり金魚を飼ったりし動植物への愛着があるのが見受けられる。しかし、浴室やトイレは清潔ではあるが季節感を採り入れてはいない。		浴室やトイレにも花や置物を飾ったりし生活感・季節感を採り入れる工夫をしていく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる場所は個人の居室である。仲の良い入居者同士声をかけあって一緒に過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は寝るだけの場所となっている方が多い。ほとんど皆さんリビングで過ごされている。居室には家族の写真を貼ったりしている。		個々の性格や心身の状況を見極め本人がどこにいてどこが居心地がいいのか知り理解して行く。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はこまめに行っているが、温度調節はスタッフの感覚で行っている事が多く入居者に室温ついて尋ねたりする配慮が不足している。		日中と朝夕の温度差など細かい事に気付き温度調節も出来る様していく。入居者にも尋ねるといふ事を実施していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所、要所に手すりをつけたりしてはいるが、まだ十分であるとはいえない。		居室や浴室内など手すりが必要と思われる場所も検討し安全な環境づくりに努めていく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	解る力に応じて混乱や失敗の無いよう見守りや声掛け、介助をおこなっているが十分ではない。		工夫して失敗する事もあるが繰り返し考え利用者が不安のなく生活できる様支援して行きたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダもきれいにし季節の花や植物を植え水かけをして頂いている。屋上にも作物を作ったり成長を見たり収穫を楽しんだりしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

慣れないスタッフが多いが失敗しながらも毎日前向きに意欲的に取り組んでいる。記録やチェック表をきちんとする事で利用者を知る努力をして